

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2013年10月18日

135号

NPO法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-3 1-8

活動ホーム「しもだ」内

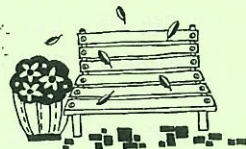
TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

◆地域活動ホームしもだ・設立25年◆

身近な福祉の拠点として

—昭和63年10.1 ともに生きよう地域のなかで...と—



写真展の後始末もそこそこに、区内で大きなイベントが続き、おまけに二つの台風に翻弄された上「活動ホームしもだ秋まつり」は、残念ながら雨。せっかく準備した『支える会』のガレージセールは中止しました。ただ、人形劇団ひとみ座の公演を楽しみに集まった近所のお子様たちは、もうすっかり、物語の中に入り込んでいました...



思い起こせば、ひとみ座の皆さんとは、もう30年近いお付き合い。つまり活動ホームしもだの誕生する前からのご縁なのです。

* * *

さて、活動ホームしもだが出来てから、まる25年たちました。

過去を語って生まれることは、少ないのかもしれませんが、やはり誕生のころのいきさつは、伝えておきたいと思うのです。

市内第15番目の障害者地域活動ホーム「しもだ」の建設委員会は、当時としては珍しく、約半数を障害児者の団体の代表によって構成されていました。それは、「まず箱もの」ではなく、自分たちが目指したいデイの場とはどんなところか、特に重い障害のある人たちにとって、必要な事は、そしてそのための場所は... という研究会=勉強会(新作業所設立準備会)が先あって、やがて区内2館目の活動ホーム設立の話が持ち上がった時、これを受け止める所となったからです。

* * *

この研究会を建設委員会に切り替える中で地元の代表の皆さんと、この会に集っていたいくつかの訓練会や親の会、先にできていた活動ホーム「ともだちの丘」の関係者も交え取り組みを始めました。めざしたのは、地域の中の身近な福祉の拠点です。

“重い障害があっても、地域の中で共に生きよう” そのために当事者や親たちを支援す

る場としようということで、地元の皆さんの応援もあり、障害団体のまとまりも熱意も、ありました。『ひとみ座』の大型人形劇の上演会で資金作りを行ったり、それぞれ可能な額での資金を出し合って建設費総額1億円の5%にあたる自己負担金と初度調弁費を作ったのです。



そして設計者との話し合いをくり返し、限られた400平米の中に、地域との交流活動ができる工夫や、障害者の生活を助けるための設備などを盛り込みました。いろいろな障害児者の親たちが、その障害の特性を共有しながら設備を考える中で、お互いの理解も深められたのです。

開設するとまず「地域作業所よつばホーム」が入り、半年後には「コスモス作業所」ができて、この2つの作業所も共に「活動ホームしもだ運営委員会」と共に活動を始め、それからのたくさんの年中行事や地域交流事業を行ってきました。

やがてこの3つの運営委員会は、足掛け5年の歳月をかけて話し合いながら、2001年機能強化型活動ホームとして生まれ変わります。それまでは、たくさんの地域の応援者を得て、地域交流バザーをはじめ、しもだの管理についてまで、全てが親たちの手で運営されてきたのです。

機能強化型地域活動ホームとなってからの歩みは2007年NPO法人となり、国の経費も入れ、それなりに経営もととのってきました。交流事業のバザーや大掃除などを除けば、全て職員が仕事として携わることになりました。

当時は、知的障害や発達障害のある人たち、重度の重複障害のある人たち、それぞれのグループの立ち上がってきた経緯をこえ「しもだ」のもとに一緒になっていくのには、それぞれに超えねばならない意識のかべがありました。これを後押ししたのは、やはり制度という時の流れなのだと思いますが、共に親たちが作り上げてきたところであったために、少しでも後退することがあっては、受け入れられないので、「これでいこう」というまでには、検討に検討を重ね、“時間をかけた”選択をしたのです。

けれど、10数年たってみれば、いろいろ段階は踏みつつも、念願のナースも協力医師も配属されるようになりました。そして、今は4館の活動ホームが連結し「NPO げんき」としてさらなる充実をめざしています。その意味でも、たくさんの人たちに支えられた25年間であったと思います。

この活動の裏付けがなければ、グループホームへの取り組みもあり得なかったとおもっております。

この活動の裏付けがなければ、グループホームへの取り組みもあり得なかったとおもっております。



第11回写真展開催(9.30~10.5)

秋の空

心はずんだ

バスの旅

秋風に

光りかがやく

海の波

俳句

(よつばホーム) 高島勢津子



めがねの声

◆街も変わってきていますね...

とても久しぶりに、横浜美術館へいきました。
ヘルパーと2人だけで出かけたのは、はじめてでした。

今度は、混雑する土、日を避けて、平日にいきました。
でもやっぱり少し混んでいました。はじめ並んでいたら、職員が見つけてくれて先にどうぞと言って入れてくれました。

中も、たくさんの人で混んでいました。みんな夢中で観ているので、みんなの後ろからもぐって隙間に入って見ていました。でも思い切って行ってよかったです。

私は絵を見ると、心が明るくなるようにおもいます。
自分もいろいろなことをやりたくなったり、絵をかきたくなったり、織物の糸の色がイメージとして頭に浮かんだりします。

久しぶりに、横浜のみなとみらいをあるきました。駅から美術館に行く間にずっと前にはなかった大きなビルができていました。たくさんファッションのお店や、いろいろなお店が沢山増えています。横浜も変わっていくなとおもいました。

それなのに、ふだん買いたくても、私の着たいようふくや、靴がだんだんなくなります。ちょっと変ね...。私はいつまでも、小さいからでしょうか...?!

とにかくいつも、「なんてたくさんの人がいるんだろう。こんなにたくさんの人たちがどこに住んでいるのだろうか」と思って帰ります。

* * *

この頃は、食品のスーパーも大型になります。小さな個人のお店は少なくなりました。でも、「まいばすけっと」という小さなスーパーがいろいろなところでできています。それも、大きなスーパーのそばや、駅のそば、コンビニの隣にできたりするのです。私の通る道にも、24時間の100円食品ショップの隣にできました。

はじめは、母と二人で『なんと！いい度胸しているわね〜』とあきれていましたが、今は母もたまに車を止めて、ちょっと買い物をしてきたりします。二人で大笑いです。よく見るとイオンとかいてありました。これも大型店の仕事なわけです。

今、無くなって寂しくなったり、懐かしい小さな街のお店の、“ちょっと買える” 便利さを取られたみたいなのがしています。

* * *

たまに外に出て街を歩くと、いろいろ見たり考えたりして、面白いですね。

大原友子

ご入会 ご継続 ありがとうございます

(敬称略)

【賛助会員】 平等志成

【ご寄附ありがとうございました】 宮田忠夫様、明田川節子様

今月のよつばホーム&第2よつばホーム

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？
スポーツの秋といいますが、7年後の東京オリンピックが楽しみです♪

季節の変わり目・・・

今年は『異常気象の当たり年』とでも思ってしまうほど、各地で『記録的な天候』を観測しているようです。

この夏は全国的に、とにかく暑い『猛暑、酷暑、厳暑』なんて文字が目につきました。

こここのところ、やっと秋の気配に『過ごしやすくなってきたな』と思いきや、体がダルい、頭がイタイ、等『何だか体調がすぐれない』人が続出。いわゆる風邪の人もいます。『秋バテ』という症状の人も多いのだそうです。

夏の疲れや季節の変わり目で、体調崩してしまうような状態をひっくるめて『秋バテ』というようです。

医者にかわずに気合いで治すぞ！

秋バテした友人が市販薬(いわゆる風邪薬)のみながら仕事を続けていたら、10日目位に救急車のお世話になってしまいました(その後は適切な処置をうけて快復しましたが)。

その友人の入院先の病院の同室者同士で詠んだ川柳、

『秋の風、油断してたら、秋の風邪』

『市販薬、3日で効かなきゃ、病院へ』 だ、そうです。やれやれ(T_T)。

しもだの旅行

9/11~13 次郎さんが伊豆方面に、9/19~20 よつばグループのメンバーが千葉方面に旅行してきました♪

この時期は秋雨前線や台風が発生しやすいですが、まずまずの天候に恵まれました！

旅行前は何かと大忙しです。準備はもちろん、「おみやげ何がいい？」とヘルパーさんに聞いてまわったり、天気大丈夫かなあと心配したり・・・。

そんな心配をよそに、結果的にはみんな元気に旅行を満喫してきました！

実は旅行前に入居者、スタッフで風邪が流行ってしまい、ギリギリまで心配していました。

天候不順や気温の変化で体調崩す人が続出しました。

そんな中でも高村さんは風邪とは無縁で、元気にマイペースな生活を送っています。高村さんは週末には体操教室、スイミング、グループホームでも腹筋、背筋など筋トレもこなし、体力作りは万全です。

高村さんの旅行は11月に控えています。

引き続き体調管理に気をつけたいと思います。

秋も深まり、朝夕はかなり冷え込んできました。なにとぞご自愛のほどを・・・。

